

平成28年度 佐渡市体育部 活動報告

部長 小田 俊裕

1 研修の方針

「かかわり合い 学び合う 体育学習 ～言語活動の充実を通して～」をテーマに、授業研究や講習会、体力向上の取組の共有化を通して研修を深める。

2 活動の様子

(1) 研修推進部（授業研究2回）

- ① ア 期 日 10月19日(水) イ 会 場 両尾小学校
ウ 授業者 教諭 福原 啓介
エ 指導者 金泉小学校 教頭 長谷川 覚 様
オ 単 元 第1, 2学年 表現・リズム遊び「なりきって楽しもう」
カ 協議内容



- 「視点を焦点化してお互いの動きを見合い、よい動きを共有することは、技能の向上を図る上で有効にはたらいていたか。」について

児童は動きを言語化して共有し、互いに真似をし合う姿が見られた。指導者からは、「1時間の中で目指す動きを指導者が意識して、意図的に評価の言葉掛けを行うことが大切。」「空間・速さ・対象の特性がよい動きの視点。この視点をもって動きの言語化が図られるとよい。」との指導があった。

- 「3段階のスマールステップの授業構成は、児童ののびのびとした動きを引き出す上で、有効にはたらいていたか。」について

「なってみタイム」での動きの共有、経験が「なりきってみタイム」でいかされていた。

指導者からは、『作る・見合う・みんなで動く経験から、自分で動きを作る意欲が生まれる。』『それぞれのステップがねらいをもっている。その関連付けが大切。』との指導があった。

- ② ア 期 日 12月7日(水) イ 会 場 金井小学校
ウ 授業者 教諭 三本 雄樹
エ 指導者 松ヶ崎小学校 校長 小畑 一二美 様



- オ 単 元 第3学年 ゲーム「フットビー」
カ 協議内容

- 「フットビーは、ボールを持たないときの動きを高める教材として有効だったか。」について
フットビーは弾んだり、空中に浮いたりすることが少なく、児童がスペースを考える際にコートとボールの動きを平面のみで考えることができていた。

指導者からは、『動きがボール先行型の3年生においては、ゴール型ゲームにおいてボールを持たないときの動きを考えやすい教材になっている。』との指導があった。

- 「空いているスペースを基に、チームの作戦や動きを考えさせたことは、言語活動の充実を図る上で有効であったか。」について

児童は動き方をホワイトボードに記し、スペースへの動き方やパスを出す方向について話し合っていた。スペースを基に作戦を考えるので、3年生でも焦点化された話し合いになっていた。

指導者からは、言語活動を充実させるためにも、『攻守が入り交じらないので、ディフェンスが動かなければならないように、ルールや場の設定を工夫する余地がある。』との指導があった。

(2) 体力向上部

- ① 体力向上のまとめ

ア 佐渡市の小学生の体力 イ 各校の体力向上の取組紹介

(3) 広報部

- ① 「体育部だより」の発行

3 成果と課題

今年度も、2回の授業研究を行い、かかわり合い、学び合うための手だての有効性について研修を深めることができた。言語活動の充実をすることで、体育授業の中の「できた・分かった」を増やし、児童の体力を向上させていくために、今後も研修を深めていきたい。